



実 用 新 案 登 録 願

昭和48年6月16日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 組立式水路用コンクリートブロック
2. 考 案 者 (実用新案登録出願人と同じ)
3. 実用新案登録出願人

住 所 ^{〒950-0101} 福島県大沼郡会津高田町甲4891番地

氏 名 ^{フナ} 船 ^キ 木 ^{カズ} 一 ^オ 夫

4. 添付書類の目録

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 図 面 | 1 通 |

48-07271

明 細 書

1. 考案の名称

組立式水路用コンクリートブロック

2. 実用新案登録請求の範囲

本文及び図面に詳記するように支柱の側面 1、1' 及び側板 2 が円の一部をなす組立式水路用コンクリートブロックの考案

8. 考案の詳細な説明

この考案は組立式水路用コンクリートブロックの支柱の両側面及び側板を弧型にしたことを特徴とするものである。

従来この種のコンクリートブロックは第 5 図に示すように支柱及び側板がいずれも直線をもってなされているために流水量の増加を計るには支柱の両側面に勾配を設けるか、又は支柱を大型にして水路幅を増加するしかなかった。

こうすることによって確かに水路断面は増加するが、いずれもこれに要する用地の使用面積が増大し不経済であった。

本案はこうした欠点をなくすためになされた

もので、これを図面について説明すると、第1図の支柱の両側面1.1'を弧型にし、これに使用する側板も第8図のように弧型にしたものである。

これを組立てると第6図の斜面図のようになるが、こうすることによって水路の両側面が、円の一部をなし、第7図のように工事施工後に復土すれば従来のこの種のコンクリートブロックを使用した場合に要する用地面積と同様の用地で約倍に近い水路断面を得ることが出来る。

4. 図面の簡単な説明

第1図は支柱の正・背面図である。

第2図は第1図の支柱の左右側面図である。

第3図は側板の左右側面図である。

第4図は第3図の側板の正面図である。

第5図は従来の支柱の正・背面図である。

第6図は支柱及び側板を組立てた斜面図である。

第7図は支柱及び側板を組立て復土した場合の支柱の断面図である。

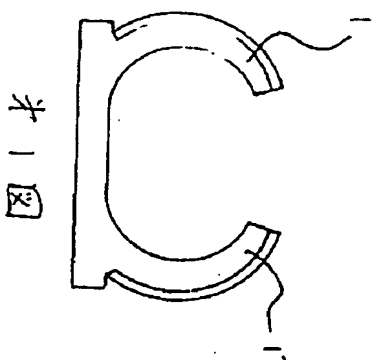
1 及び 1' は支柱の左右側面である。
2 は側板である。

実用新案登録出願人

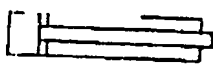
船 木 一 夫

BEST AVAILABLE COPY

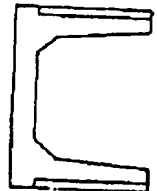
図面



第1図



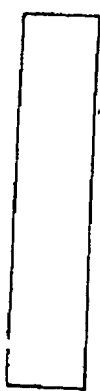
第2図



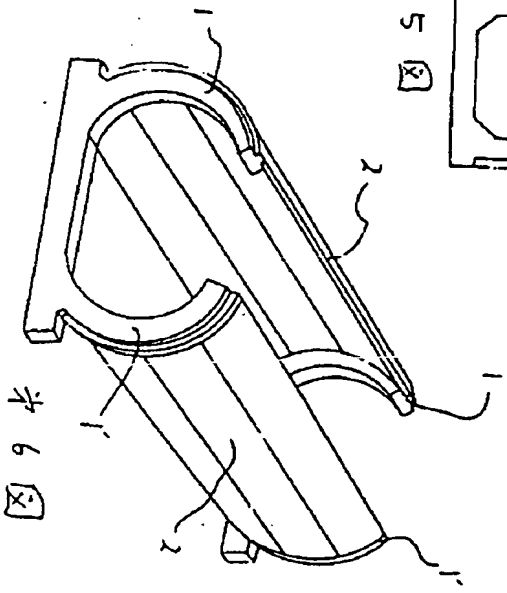
第5図



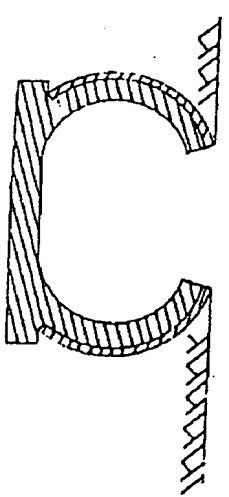
第3図



第4図



第6図



第7図